

かし、山越え気流が、地表に「松本の南風」となって及ぶのは、構造分類で示した Type II B の場合で、この Type のみが、すでに小川 (1968) が指摘しているように、各地の山越え気流による強風と同じものと考えられる。

さらに、一般場との関連は、「松本の南風」が、周辺の気圧傾度の負の向きの一定範囲 SSE から反時計回りに NW で出現していることから、特定の地上風系の Type で発生しやすいと考えられ、その Type はすでに河村 (1966, 1970) が示している中部日本の地上風系の Type I, II, V であろう。こうした、一般場の Type の差異による松本周辺の気圧傾度、それに対する負の気圧偏差の存在による、穂高一大町の風系の特徴で、典型的「松本の南風」を、Type I A, I B, Type II A, II B の4つに分類できた。以上のような、局地風としての「松本の南風」は、前述の宇田川 (1966) の「松本南風発生機構のモデル」を全体として支持するものとなっている。

7. あとがき

本論文は、著者の1名(杉原保幸)が、昭和50年度東大海洋研究所研究生として取り組んだ局地気象の研究の

結果を基礎としていることを付記する。

文 献

- 河村 武, 1966: 中部日本における地上風系, 地理学評論, 39, 538-554.
 —, 1970: 南西気流に伴う中部日本の地上風系, 地理学評論, 43, 203-210.
 三澤勝衛, 河角 広, 1939: 二三の卓越風指標植物に就て, 地理学, 7, 佐々倉抗三, 1950: 小気候学, 古今書院, 87-88. (参照).
 百瀬秀雄, 1967: 松本の風向の日変化について, 関東地方気象研究会誌, 北部地区, No. 16
 小川祐嗣, 1968: 松本の南風, 東京管区地方研究会誌, No. 1, 44.
 Queney. P., 1948: The problem of air flow over mountains, A summary of theoretical studies, Bull. Ame. Met. Soc., 29, 16-26.
 関 三孝, 手塚喜三, 1963: 松本の南風について (第1報), 関東地方気象研究会誌, 甲信地区, No. 4.
 宇田川和夫, 1966: 松本の南風の発生機構について, 研究時報, 18, 338-352.

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
月例会「高層気象」	昭和52年9月29日	日本気象学会	気象庁
昭和52年度 日本気象学会 秋季大会	昭和52年10月4日～6日	日本気象学会	札幌市教育文化会館
水資源に関するシンポジウム	昭和52年10月25日～28日		プレスセンターホール
第3回リモートセンシング・ シンポジウム	昭和52年11月4日～5日		機械振興会館
第24回 風に関するシンポジ ウム	昭和52年11月11日		日大生産工学部 (習志野校舎)